

小学校教科担任制 ～チーム高学年部を意識して～



尾道市立土堂小学校



尾道市立土堂小学校

・児童数170名 9学級 (令和5年11月8日現在)

・学校教育目標

「志を持ち未来を拓く子どもの育成」

【自ら学ぶ】



期待する効果

1 授業の質の向上及びそれに伴う学力向上

2 多面的な児童理解

3 小学校から中学校への円滑な接続

4 働き方改革

1 授業の質の向上及びそれに伴う学力向上の取組

①教科担任制ブロック会議（定例月初め）

○気づき・今後に向けての対応の交流

○生徒指導上の問題について

○カリキュラム・マネジメントの視点を取り入れた教科横断的な指導計画等

I 授業の質の向上及びそれに伴う学力向上の取組

①教科担任制ブロック会議（4月）

気付き

- ・ 配慮する児童への対応（算数科の授業で上のレベルがしたい。学校へ行かずオンラインでも出席にしてほしい。）
- ・ 反応の早い児童の発言によって授業が進んでしまう。
- ・ タブレットのルールを守っていない児童がいる。
（いらない書き込み、デスクトップ画面の変更、オンラインのタイピングゲームを使用等）

対応

- ・ タブレット使用についてのルールを再確認する。（タイピングは学校で制限、休憩のタブレット使用禁止等）
- ・ 反応の早い児童も考えるような「問い」を設定する。（知識を問うのではなく、理由を問うような思考を促す発問）
- ・ 土堂小学校授業作りの4つの取組を全体で行う。
 - ①全員に自分の考えをもたせる。
 - ②10分以上の話し合い活動を行う。
 - ③自分の考えを自分の言葉で表現する場をもつ。（列指名、グループ指名など）
 - ④5分間の振り返りの時間を確保する。
- ・ 授業の初めと終わりのあいさつの仕方を統一し、指導する。
- ・ 学習用具をそろえる。（机上に筆箱は出さない。下敷きを使わせる。）

I 授業の質の向上及びそれに伴う学力向上の取組

①教科担任制ブロック会議（6月）

気付き

- 学活の時間に、たくさんの意見が出た方がおもしろいという話し合いをした。発表に対する意識が変わってきている。
- 学習前後で自分の考えがどう変容したのか分かる振り返りを全体で書かせていく。昨年度の振り返りを改善する。
- 外国語科で6年生のスピーチの声が大きくなった。表現する場を与え続けていることで効果が表れている。（音楽科でも）
- 自由に話す様子を見ながら、子供の反応、言い方、人間関係等を見て、気付いたことがあれば担任と連携している。
- 社会科ではワークシートを使っているが、予想を立てられるようになった。
- フォームを使って問題を作成し、形成的評価をとっている。
- 授業で使っているスライドをクラスルームにあげることで、子供たちは家で復習として見ているようである。
- 学級で起こった生徒指導上の問題への対応が教科担任制のために遅れてしまうことがある。
- 休憩時間に廊下や教室での過ごし方でゆらみがある。

対応

- 中学校の振り返りの書き方を知ることで、指導につながりをもたせていく。
- 教科担任と担任で連携を密に取る。細かいところの気付きも報告するようにする。
- それぞれの先生の持ち味を活かした授業作りをしていく。
- 児童のがんばりをいろいろな面から、いろいろな先生で価値付けることを大切にしていく。
- 低学年から、その学年の付けるべき力を確実に付けていく。

I 授業の質の向上及びそれに伴う学力向上の取組

① 教科担任制ブロック会議（7月）

気付き

- 5年生児童の対応について
- 5年生児童の支援について
- 6年生でこそこそ話をしたり日記交換をしたり、トイレに集まったりする児童がいる。
- 算数科で個別最適な学びをした。今後、授業改善の必要性を感じている。
- ブロック会議の中で今後も、カリキュラム・マネジメントの視点を取り入れた教科横断的な指導計画を立てていく。

その他

- 日々の連携を大切に、足並みをそろえて学校全体で児童の対応にあたる。
- 授業参観週間を利用して、それぞれの教科における個別最適な学びにチャレンジし、授業改善に努める。
- ブロック会議を利用して、定期的なカリキュラム・マネジメントに取り組む。

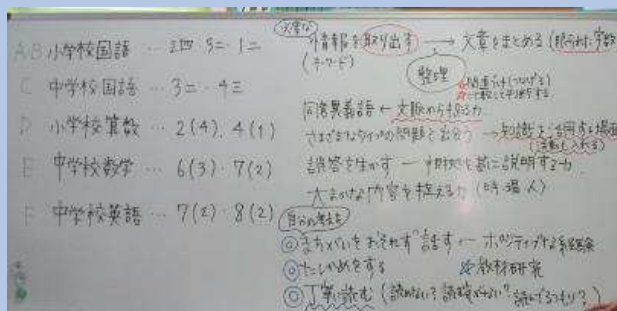
I 授業の質の向上及びそれに伴う学力向上の取組

① 教科担任制ブロック会議拡大研修

小中合同研修（8月28日）



2学期から授業に生かしたいこと



I 授業の質の向上及びそれに伴う学力向上の取組

①教科担任制ブロック会議拡大研修 校内研修（8月29日）

土堂小学校 授業づくり4つの取組



I 授業の質の向上及びそれに伴う学力向上の取組

②授業参観週間による授業改善

授業力向上週間について

1. 目的
・土堂小学校授業作り4つの取組を意識して授業を行い、成果と課題、改善点を共有することで、教師の授業力を高めたり、子供達の資質・能力を育てたりする。
2. 期間
第1回 7月5日（水）～7月14日（金）
第2回 9月11日（月）～9月22日（金）
第3回 10月2日（月）～10月13日（金）
第4回 12月1日（金）～12月8日（金）
3. 取組内容
・上記の期間の中でグループ中の代表者1名の授業をグループ全員で参観する。
・期間の最終日の暮会前に参観した授業について協議を行う。
（例：第1回は7月14日（金）16:00～16:30で協議を行う。）
4. 留意点
・グループ全員が1度は授業を行うようにグループ内で計画する。
・指導案等はないが、授業者は、授業を通して付けたい力と授業作り4つの取組の何を重点としているのかを明確にしておく。
・協議の視点を「本時の目標を達成するために、授業づくりの4つの取組を行うことにより、どのような成果があったか」とする。
5. グループ
Aグループ 池田 赤羽 牧元 （佐藤）
Bグループ 中村 板倉 菅方 （勇木）
Cグループ 田中 重光 新井 三木



I 授業の質の向上及びそれに伴う学力向上の取組

③その他

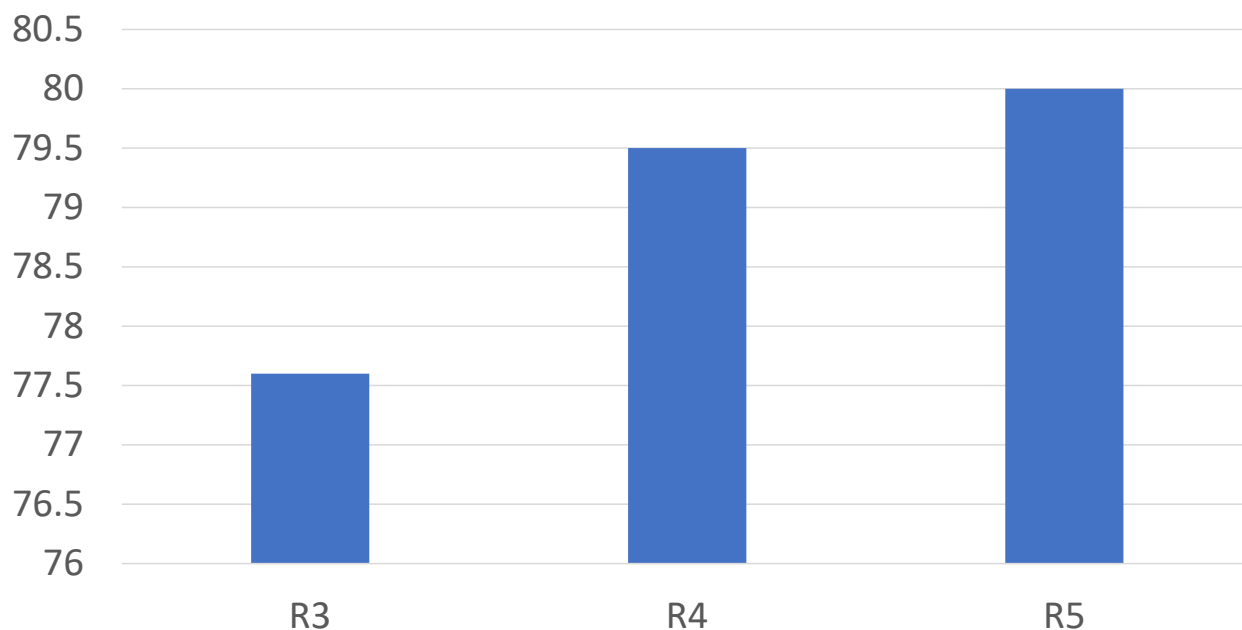
ICTを使った授業の開発

見える化した職員室の掲示物



I 授業の質の向上及びそれに伴う学力向上の成果

国語科・算数科テストの90点以上の割合（学校評価より）



I 授業の質の向上及びそれに伴う学力向上の課題

今後に向けて

- さらなる授業改善
- 教科横断を意識した授業作り
- 個別最適な学び

I 授業の質の向上及びそれに伴う学力向上の課題

